

美しい町づくり

安部 萌由子

「あ、ごみが……」

朝、家を出ると、通学路のわきのごみが目に入ります。近くに、だがし屋があり、自動はん売機もあるからです。

おかしのふくろ、ペットボトル、空きカンなどがすてられています。おかしのふくろを拾って、学校のごみ箱に捨てたこともありました。

夏休み、そばと行っただ歯医者さんの帰りに、ビールの空きカンとおべんとうかすのパックが捨てられていました。前の夜におまつりがあったからでしょう。そばが、

「扇山町は、アルミカンリサイクル運動をしてるんだよ。」

と教えてくれました。それで、暑かっただけど公みん館横のアルミカンボックスに入れに行きました。たくさんアルミカンが入っていました。それを見て、一学期、社会科見学に

行ったりリサイクルセンターで聞いた再利用の話を思い出しました。

リサイクルセンターだけでなく、私の近くでも、ごみをへらすためにしていることがあります。近所の家では、畑に穴をほって、生ごみをうめ、ひ料を作っているそうです。そばは、コンポストというぼかしボックスに生ごみを入れて、花の土にしています。この二つのことは、野さいや花を育てるためだけではなく、生ごみをリサイクルしていることにもなっているのです。

私のまわりの人たちは、ごみをへらすためにいろいろな工夫をしていることを知りました。

私がこれからしようと思っていることは、物をすぐすてずに長く使うこと。ごみはんきのコンテナのこと。本当に必要かどうか考えて買うことの三つをやることです。